

### 4-3 地域活動と参画について

(3月28日更新)

地域活動と参画について詳しく知るために、ここでは就業状況等を参考にしています。

世代別就業状況は、図28に示されるとおり、20代から50代にかけては過半数を超える割合がフルタイム勤務で占められています。パートタイムを含めれば、30代から50代は回答者のうち8割超が就業中となります。

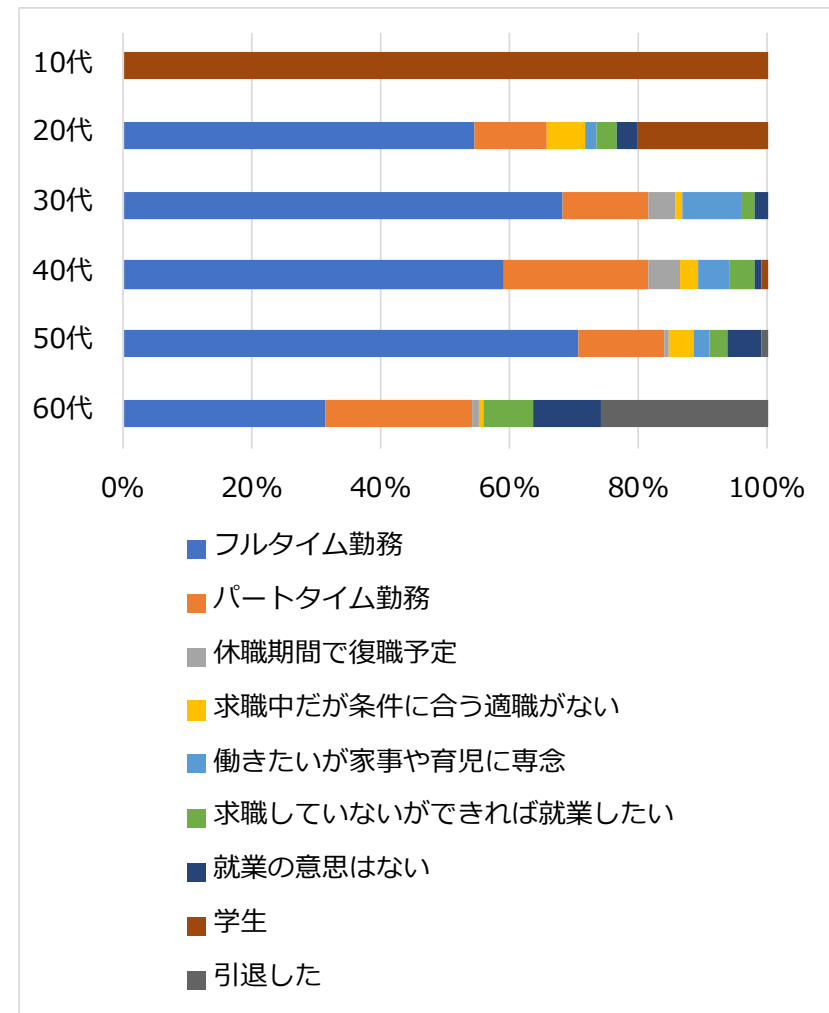


図28 勤務状況

次に、多忙である回答者を世代別で集計したものが図 29 です。30 代及び 40 代が忙しさのピークを占めています。地域全体でこうした世代をサポートすることで、ライフステージの変化に伴う担い手意識が自然に醸成されると考えられます。さらに高度な地域であれば、現役世代ならではの地域での活躍の場を繰り広げる余地もあると思われます。そのためには、「無理のない」場づくりが不可欠となります。

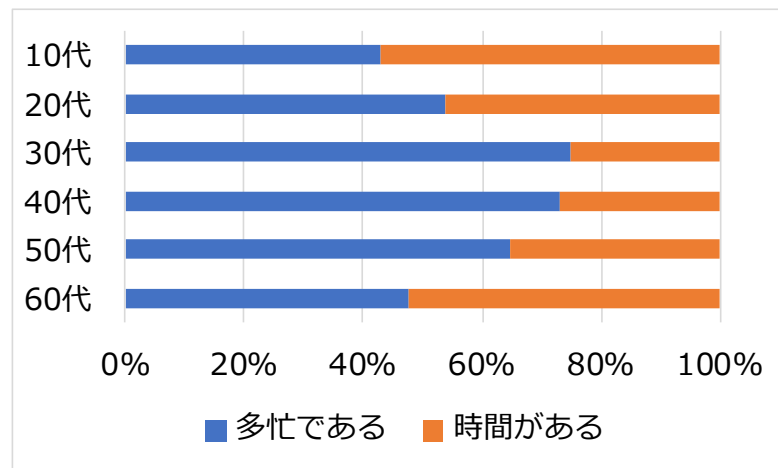


図 29 世代別の多忙さ

多忙な回答者の方々の「身近に頼れる人」をまとめたものが図 30 で示されています。大部分の全世代での「ご近所」の割合が若干減少する以外は、回答者全体の身近に頼れる人と大きな相違はみられていません。

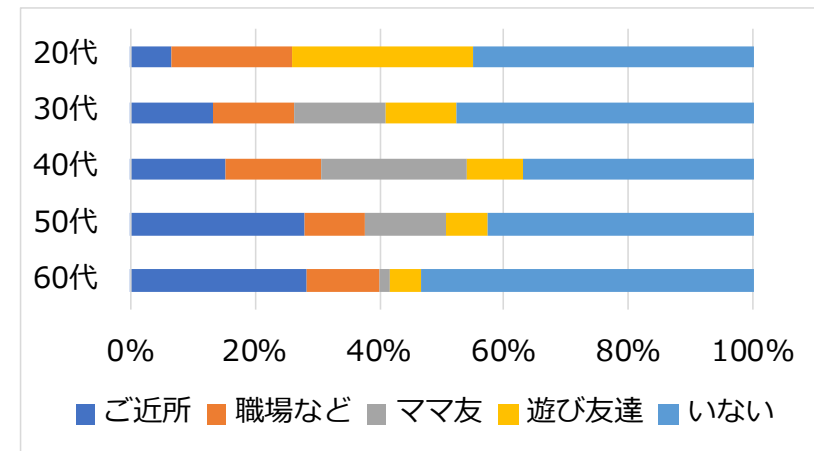


図 30 多忙な回答者の身近に頼れる人

多忙な回答者の方々の地域活動の必要性の捉え方については、図 31 のとおり、回答者全体での結果と比較して、40 代が「必要」または「あった方がよい」をより高く示しています。

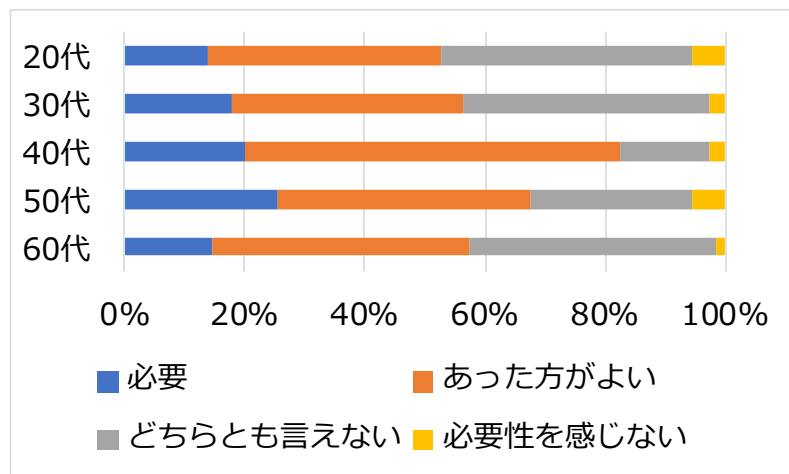


図 31 多忙である回答者の地域活動の必要性の捉え方

多忙な居住者の災害時の頼りになる存在については、図 32 のとおり、高齢になるにつれて「ない」の割合が回答者全体に比べて若干高くなっています。

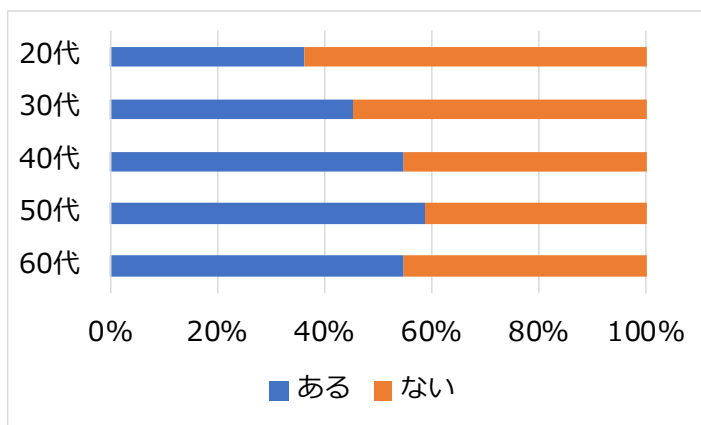


図 32 多忙な居住者の災害時の頼り

### 世代別情報源

図 33 は、世代別で見た地域の情報収集源である。若者は IT リテラシーに富むとよく言われますが、実際には「たま広報（全戸配布）」、「自治会等の回覧板、配布物等」をはじめとした紙媒体ならではの情報配信方法にも高い支持を得ており、エコ社会や IT 社会に向けた電子化・ICT の推進とともに、段階的な導入や適切な使い分けといった手段が必要と考えられます。

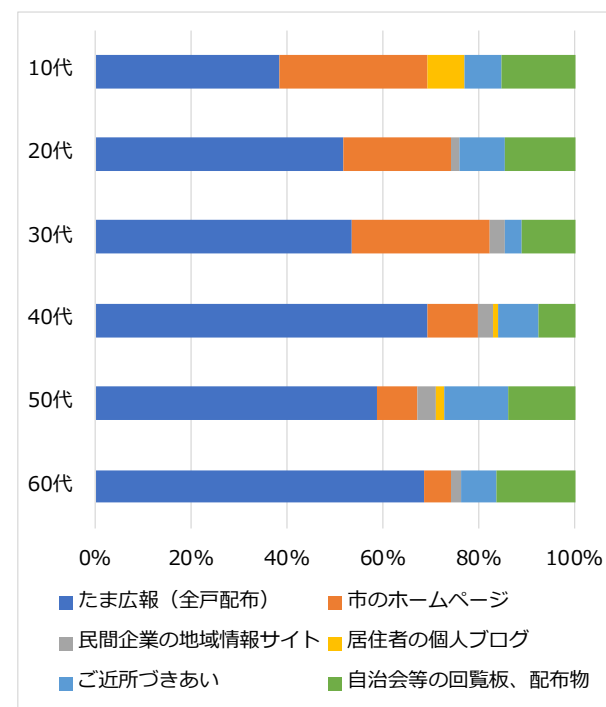


図 33 世代別情報収集源